

## 19・2%が売上増加の見込み

ブレインマークス

ブレインマークスでは、2011年6月に保険代理店関係者（以下、関係者）を対象とした「震災後の保険代理店経営環境調査」を行った。

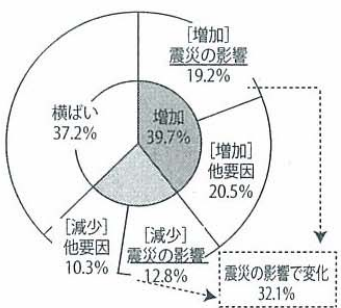
この調査は、東日本大震災が保険代理店の経営に及ぼしている影響などを調べ、各保険代理店の経営計画の見直しや業界の活性化のための「情報・基礎データ」として活用してもらうのが目的。

調査内容は、2011年上期売り上げに関するもので、「震災以前の見込みに対する、6月現在での見込みの変化」について。

具体的には、2011年度上期（11年4月～9月末）の売り上げが、震災から約3カ月たった6月中旬時点で、どのように変化する見込みなのかを質問した。

それに対して39・7%の関係者が「増加」と回答し、そのうち19・2%が「震災の影響で増加」、その他「営業活動の成果」や「支店開設や人員増加の効果」などの回答があった。

2011年上期の売上見込み



## 11年上期の売上「32.1%が震災の影響有り」

また、23・1%の関係者が「減少」と回答し、そのうち12・8%が「震災の影響で減少」、その他「ネット代理店への流出」などの回答があった。

売上見込みが変化した理由が「震災の影響」と回答したのは、32・1%となった。

一方、代理店関係者の82・1%が「震災関連で、顧客から保険の見直し・新規契約に関する問い合わせがあった」と回答しており、大震災を機に顧客の保険に対する意識の高まりがうかがえたとしている。

以上の調査結果から、同社の安東邦彦代表取締役は次のように語る。

「東日本大震災が今後の保険代理店経営に大きな影響を与えることは間違いない。今回の調査でも、保険代理店としての『存在価値や意義について、改めて意識した』との意見が数多くあった。

しかし、この存在価値、意義をもっとも強く意識したのは、顧客に違いない。安い保険、お得な保険、という視点だけではなく、顧客の立場で必要な保険を漏れなく提案する専門知識と、顧客に寄り添う姿勢が今後一層、代理店関係者に求められるだろう」

調査期間 11年6月7日～19日  
調査方法 インターネット調査  
調査対象 保険代理店関係者78人